

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000088		
法人名	株式会社 サザンツリー		
事業所名	グループホーム サザンツリー (東ユニット)		
所在地	兵庫県姫路市飾西330番地		
自己評価作成日	平成24年1月24日	評価結果市町村受理日	平成24年3月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2894000088&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成24年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人がその人らしく暮らせるホーム」を基本理念とし、入居者本位のケア提供に努めている。家庭的な雰囲気の中で、料理や洗濯などの家事を持続し、入居者の残存能力を最大限に引き出すようにしている。東ユニットでは、散歩、歌など動きのあるレクを日課とし、楽しみながら心身の活性化と健康維持ができるようにしている。西ユニットでは、個性的な入居者の感性に寄り添うケアを考えながら、日々の生活を大切に、笑顔のある暮らしの支援をしている。家族からはホームについて、「笑い声が聞こえる」「いつも清潔だ」「料理が美味しそうだ」などの評価をいただいている。スタッフはセンター方式を活用しながら話し合いを重ね、入居者の状態を把握し、チームケアに取り組んでいる。地域の医療機関や他施設との連携を強め、各方面から入居者、家族の安心できる暮らしを支援している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清潔に心掛け、家庭的で落ち着いた雰囲気と笑顔を大切にしている施設である。また、散歩を日課とし、地域との交流も年ごとに深まってきている。グループホームの特徴を活かした支援に強い思いを持って、残存機能を最大限に生かすケアを心掛け、センター方式を活用することで、利用者、ご家族の思いや意向をよりよく把握し、個別支援に取組まれている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とともに生きる」を理念のひとつに掲げている。スタッフは毎日の朝礼で理念の唱和を欠かさず行い、意識付けを行うことで、現状改善に努め、年々地域交流の機会を増やしている。	開設時の基本理念に「地域とともに」という方針を追加され、朝礼での唱和、日々のケアの中での振り返りをされ、職員間での共有を図られている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住宅街を毎日散歩しており、出会う住民と挨拶をしたり、自家製の野菜や果物をいただくなどの交流がある。自治会の催事への参加や地域の高齢者サークル「なごみの会」との交流頻度も増えている。	理念に追加されたように、四季折々の地域行事への参加、自治会のふれあい喫茶への参加、地域の高齢者サークルへの参加、さらに事業所での様々な企画を地域に紹介、招待されるなど、年々積極的に交流を重ねられている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症見守り訪問員の実習を受け入れて、入居者の現状を知っていただく機会を設けている。地域住民に向けては、道沿いに設置した掲示板にホームのイベントを告知するなどして、交流のきっかけ作りをしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催。定期的に参加メンバーの交代も行いながら、認知症の現状やホームの取組み状況を報告し意見を求め、サービス向上に努めている。参加メンバーが所属する包括支援センターとの連携も強まっている。	定期開催できており、地域行事の案内をいただいたり、参加家族の提案で家族交流会の充実を図るなどの取り組みをされている。構成委員からは受け入れに関する質問も多く寄せられ、地域包括支援センターとの連携も進んでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	姫路市の介護保険課主催の集会に積極的に参加するほか、ホーム便りを送付し、ホームの活動内容や入居者の様子を把握していただくよう努めている。	2か月に一度発行しているホーム便りを送付するなど、ご利用者の状況把握につながるような情報提供に努めておられる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	これまでに直接的な身体拘束が行われたことはない。門扉の施錠については、安全確保を優先するため、家族の希望や同意を得ており、施錠されていることで家族がより安心できるのが実情である。入居者には毎日の散歩や定期的な外出により開放感を感じていただけるよう努めている。	内部研修を開催し、職員間で基準の確認やケアの振り返りをされている。安全確保のためやむを得ず策を講じる場合は、ご家族の意向を聞き、同意書も取られている。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「尊厳のある生活」を理念のひとつに掲げており、虐待が行われたことはない。定期的に内部研修を実施し、スタッフへの意識付けを行い、虐待が起きないように防止に努めている。	研修会の開催や参加で徹底を図り、さらにスタッフの意識づけのために、言葉遣いや表情など接遇面でのケース検討や指導も実施されている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の受講や、内部研修の実施によりスタッフが理解を深め、家族支援に役立てられるよう努めている。現在ホームに住所を移したり、成年後見制度を利用している入居者もいるほか、提案をした事例もある。	研修会や入居者でご利用の方がおられるため、ケースを通じて制度理解を深め、必要に応じ制度活用の紹介も行っている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項等の説明に十分な時間をとり、納得していただいている。料金等改定の際には、書面による通知にて詳細を説明し、納得いただくようにしている。	契約に至るまでに、面談や施設見学、現状をお伝えするなどの面談を繰り返し、入居までの不安の軽減に努めたうえで、契約時に制度説明および施設の方針などの説明を十分に行い、利用に対し理解が深まる取り組みをされている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からケアマネや管理者が、入居者や家族とこまめに接して現状を把握し相談に応じるなどして、ケアプランに活かしている。ホーム独自のアンケートを家族に実施したり交流会を開催し、意見や要望を広く収集し、運営に反映している。	年一回家族交流会を開催、また施設外での食事会も開催され、多くのご家族が参加されている。さらに日ごろからご家族の意向をできるだけ汲み取る姿勢で接するよう心掛けられ、昨年からのアンケートも実施されている。	昨年からの取り組まれたご家族アンケートを継続され、ご家族の思いや不安を共有できる機会を施設として提供できるよう期待します。
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者及びスタッフ全員が出席するスタッフ会議を月1回実施し、問題解決や改善提案の場としている。管理者は、日常的にスタッフに企画立案を勧めたり意見を聞き取り、運営に反映するよう心がけている。	毎朝のカンファレンス、ユニット会議、月一回の全体スタッフ会議などの機会を活用し、常に運営に関する意見交換をされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の会話や定期的な面談を通じてスタッフの意見を聞き取り、職場環境や労働条件の改善に取り入れている。会社独自の自己評価システムを導入し、スタッフの能力や実績を公平に評価することで、スタッフが自己を見つめ直し、やる気を引き出すよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数や経験、適性に依りて外部研修を受講させている。月1回の内部研修では様々なトピックを取り上げるほか、センター方式によるケアプラン実施状況を担当者が発表するなど、プロの介護者としての知識やスキルを身につけられるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姫路市のグループホーム連絡協議会に出席し、他ホームとの情報交換、相互理解に努めている。協議会の議題も回を重ねるごとに深まってきており、各スタッフが順次出席するようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に見学に来ていただき、困っていることや要望をていねいに聞き取りしている。入居による不安を払拭するため、これまでの経緯や生活歴などを関係者から情報収集し、思いを受け止め、信頼関係を築くよう努めている。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者と家族の思いが異なることもあるので、入居以前のそれぞれの思いや葛藤を受け止め、入居者に寄り添いながら、家族との信頼関係を築けるよう努めている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が困っていることや必要とすることを、居宅ケアマネジャーや医師、ソーシャルワーカー等他職種の方の協力を得たり、家族とも相談しながら見極め、ニーズに合った支援をしている。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、食器洗い、掃除、洗濯物たたみなど、できる範囲で「ともに暮らしている」という気持ちを大切に、スタッフと会話しながら一緒に行っていたい。孤独にならないよう自然に会話ができるよう声かけしたり関わるようにしている。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケース記録をお読みいただき、口頭でも説明しながら、要望をうかがったり、毎月の一筆箋で本人の生活の様子を知らせている。遠方であるなど面会の少ない家族には面談を行い、本人を支え合う関係を作っている。来訪しやすい雰囲気づくりにも努めている。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人との交友関係を断ち切らないよう、電話や手紙、年賀状のやり取りが継続できるように支援している。家族の了解を得て、知人や友人などの面会や外出もしていただいている。	ご友人や知人が面会に来られたり、便りを寄せられたりなどの機会を積極的に受け入れ、入居者との関係をつなぐよう努められている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が会話し、食事やレクリエーション開始時の声かけをしたり、助け合うなどよい関係が築けている。入居者の性格を考慮し、スタッフが適宜介入することでトラブルを回避している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時は、本人、家族の状況や習慣、好み、これまでの経過、ケアの取り組み等を、転居先の関係者に詳しく伝え、環境の変化によるダメージを最小限にとどめ、心地よい暮らしが継続できるよう支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人や家族の思いや願い等については、多方面から情報を収集している。センター方式を活用して、定期的に情報を更新し共有している。	センター方式を取り入れ、丁寧にアセスメントを行い、生活習慣や意向の把握に努められている。また独居の方には、回想法などを用いながらアセスメント情報を追加されている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方、習慣、サービス利用の経過について家族や本人から情報収集している。家族との関わりが希薄で情報量が少ないときは、会話の中から少しずつ過去の生活や情報を聞き出している。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の生活リズムや心身の状態を日々の生活の中で観察し、興味のあること、できることは何かを把握するようにしている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の些細な変化や現在の様子をスタッフ間で随時カンファレンス等で意見交換し、アセスメントやモニタリングで本人、家族の要望をうかがい、介護計画の作成に反映させている。	毎朝のカンファレンスで情報を共有し、担当制を敷きモニタリングに反映されている。また、サービス会議を開き、初期は一か月、その後は3か月ごとに介護計画の見直しをされている。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者の様子を毎日個別にケース記録に記載している。センター方式を利用し、スタッフ間で情報を共有して、カンファレンスを行い実践的なケアに活かしている。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族を含めた行事や外出を取り入れるなど、本人の状況や家族の事情に合わせ、ニーズに応じて柔軟に対応している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを受け入れている。近隣のスーパーや美容院の利用、地域包括の協力を得て、地域の高齢者サークルの方との交流を通して、豊かで楽しみのある暮らしを支援し、地域に根差したホームづくりに努めている。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携する総合病院、歯科、整形の往診を、本人や家族の希望に応じて利用できる。認知症専門医のいる医療機関との連携を緊密にし、安心して適切な治療を受けていただけるよう支援している。	通院はご家族が対応され、その他、連携医療機関からの定期往診などで、必要な医療が受けられるように体制を組まれている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していないが、バイタル測定し、表情、体調の観察を記録している。スタッフは介護に最低限必要な医療の知識を持つよう努めている。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関関係者との良好な関係作りに力を注いでおり、入院時に、本人や家族の不安を軽減できるようにしている。退院時には、医療関係者や家族と相談をしながら、入居者の帰居後の生活支援策を検討している。	入退院時に医療機関のソーシャルワーカーと連携し、早期に退院できるよう支援されている。また、退院前カンファレンスへの出席や、入院時の医療機関への情報提供も行われている。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームでどの程度まで支援できるかを説明している。重度化が予想される早い段階からスタッフ、家族、本人間で話し合いを重ねている。家族の希望を聞いて、地域の関係者と連携しながら、できるだけ要望に添った施設を紹介するなどの支援をしている。	入居時に施設の方針について(集団生活に支障のない範囲での受け入れを継続していく)説明し、ご了承いただいたのち、入居いただくようにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に社内研修を実施するほか、応急処置や緊急対応のマニュアルで、スタッフが個別に学習できるようにしている。緊急時のスタッフの連携については、さらに実践力を付けたい。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施し、近隣住民の方にも参加いただいている。今後もあらゆる状況に迅速に対応できるよう体制を整えたい。	消防署の協力で、年2回の避難訓練を実施されている。	近隣住民や地元の消防団への働きかけで、地域との協力体制が気づけることが望ましい。

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしさ」を尊重し、入居者の個性や誇りを損ねないよう、その方に合った声かけや対応をていねいに行っている。	日常のケアの場面での接遇面での振り返りなど、常に理念に照らし合わせ検討され、個人の尊厳とプライバシーが守られるよう努めておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が会話しやすい環境づくりを心がけている。入居者の声に時間をかけゆっくりと耳を傾け、表情や行動から思いを察したり、思いに添うよう心がけながら、思いやりを持って接している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調、生活リズムや個性を見極め、「その方らしく過ごせる時間を大切に、その方のペースに合わせて接するよう心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みを把握し、一緒に服を選び、ヘアスタイルなどの希望を聞き、馴染みの美容院へ同行するなどおしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、彩に気を配り、入居者の好みの献立にするなど、楽しい雰囲気での食卓を提供している。食事の準備や片づけができる人は、スタッフと一緒にいる。	日常の食事の場面以外にも、喫茶外出や少人数での外食など、様々な機会の確保に努めておられる。また、お手伝いいただける利用者とともに食事準備や片づけをされるよう心掛けておられる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好き嫌いや体調に応じて、栄養バランスのよい献立を考え、食事量、水分量を記録し、健康管理には特に気を配っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の力に応じた食後の口腔ケアの支援をしている。食事時の観察によっては、定期的な歯科往診を受けていただく場合もある。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、長時間使用されない時は尊厳とプライバシーを保ちながら、トイレを使用されるようそっと声をかけ、排泄の支援をしている。できるだけ自立をうながすような対応をしている。	一人一人の状況に合わせたケア、排せつパターンに合わせた早めの声掛けで保清に努め、失禁予防を図られている。	A
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはヨーグルトや果物、毎食多種の野菜や酢の物を取り入れている。ADLに応じて、歩行距離に配慮した外散歩や体操を日課に取り入れている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず、すんなり入れるようタイミングを見計らって、気持ちよく入浴できるよう配慮している。入浴中は背中を流しながら思いを聞いたり昔話などの会話を楽しんでもらっている。	日曜日以外毎日入浴できる体制をとり、体調や気分に合わせて入浴していただけるよう支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝の時間を設定しているが、入居者の生活習慣に従って、夜間も居室でくつろぎ、テレビを観たり、スタッフとの対話で安心して休まれるよう適宜対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の既往症や服薬の目的を把握し、入居者の小さな変化に気付いたら、主治医や家族へ報告や相談をするようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力や希望、楽しいと感じられることをケアに取り入れ、日々の生活の中で力を発揮し、張り合いを持ったり、気分転換ができるよう支援している。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や喫茶外出、買い物など毎日戸外へ出かけている。家族の協力を得て一緒に外食したり、地域でのイベントや四季折々の風物に触れていただけるよう支援している。	近所への散歩を日課とし、また、喫茶、外食、買い物などの外出の機会を設けておられる。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者にはスタッフ同行で買物に行き、本人の支払いを見守る。管理が困難な方は預り金から支払っている。使用明細の報告を随時している。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得て、電話をかけたり手紙を出したりできるようスタッフが取り継いだり、見守りするなど入居者に応じて交友関係の維持を支援している。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清潔を心がけ、リビングには、季節の花や季節を感じられるカレンダーを壁面に飾ったり、ゆったりと家庭的な雰囲気づくりを心がけている。	観葉植物を置き、ソファコーナーでくつろげる環境を整え、毎月のカレンダーを手作りしたり、替え歌でみんなで共有できる歌を作詞するなどの取り組みをされている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを、廊下には会話ができるような椅子、テーブルを設置している。テレビを観たり、会話を楽しんだり、新聞を読んだり、思い思いの過ごし方ができるように配慮している。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や小物、家族の写真などを置いている。居室ではテレビを観たり、本を読んだり、一人の時間を楽しめる居心地のよい空間をつくっている。	本人の思いをできるだけ反映させた居室づくりに努めておられる。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で、意欲を維持、引き出す工夫をしながら、一人ひとりのできることを活かしつつも安全面に考慮し、入居者に応じた支援をしている。		